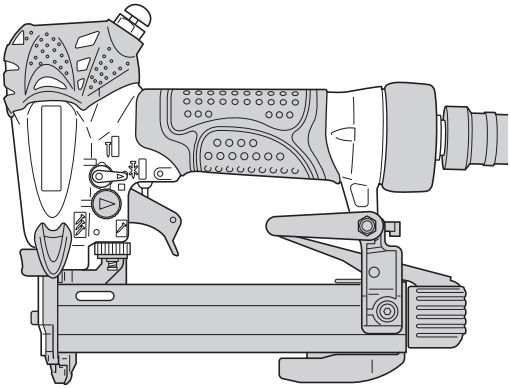
Hitachi Koki
POWER TOOLS for PROFESSIONAL

取扱説明書

用途
●建築、新建材の固定、建築部材製造
●吸音ボードなどの軽量鉄骨への直ばり作業
●壁下石膏ボード打ち
●家具、収納家具、足物家具、厨房家具の製造
●キャビネットの製造　●建具の製造
●フローリング施工【N 2507HMB, N 2507MBのみ】

（エアダスタ付）日立高圧タッカ
N 2504HMB, N 2507HMB, N 2510HMB

（エアダスタ付）日立タッカ
N 2504MB, N 2507MB, N 2510MB



N 2504HMB

このたびは日立高圧タッカ／日立タッカをお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。

はじめに

高圧タッカ／タッカの安全上のご注意…1
各部の名称 ……8
仕様 ……8
別売部品 ……9

使い方

ご使用前の準備・点検 ……9
ステープルの装てん方法 ……13
ステープルの打ち方(単発／連続) …13
ステープルを打つ ……17
打ち込み深さの調整方法 ……18
空打ち防止機構について ……18
調圧器について ……19
エアダスタバルブの使い方 ……20
排気方向の変え方 ……20
フックの取扱い方 ……21
ベースについて ……22
ステープルの取扱い方 ……22

その他

保守・点検 ……23
エアコンプレッサと作業の速さ …25
使用潤滑油 ……26
ご修理のときは……裏表紙

HITACHI

⚠警告、⚠注意、 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ **警告**」、「⚠ **注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠注意 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお、「⚠ **注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 ：**製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。**

高圧タッカ／タッカの安全上のご注意

- **けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。**
- **ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。**
- **お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。**

⚠警告

作業前

① 保護メガネを使用してください。

- 作業中は、保護メガネを使用してください。
- まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。ステープルを連結している接着剤やテープの破片、打ち損じのステープルが目に当たると、けがの原因になります。

② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。

- 本機は、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素、アセチレン、プロパンなど）を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。

①

②

⚠警告

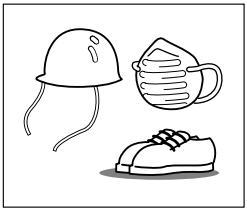
③ 高圧タッカ（N 2504HMB, N 2507HMB, N 2510HMB）には、高圧釘打機用エアコンプレッサと専用の高圧エアホースを使用してください。

- 高圧タッカは、使用圧力を一般圧のタッカより高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと専用の高圧エアホースを使用してください。
- 高圧タッカおよびこれらのエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットも専用となっており、一般圧のものと接続できないようにしてあるので、改造をしないでください。
  これら以外のものを使用すると事故の原因になります。

④ 機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。

⑤ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴、防じんマスクなどの防具を着用してください。

⑤

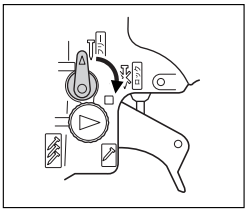


⑥ きちんとした服装で作業してください。

⑦ エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。

- ねじがゆるんでいないこと。
- 損傷したり、はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。
- 引金がロックできること。
- プッシュレバーを引き出して上下させたとき、スムーズに動くこと。
- 引き出したプッシュレバーがもとの位置に戻ること。
  異常のあるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

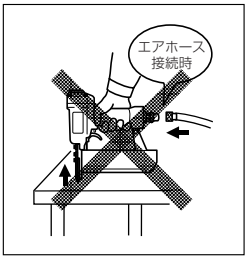
⑦



⑧ エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金をロックする。
- 射出口に触れたり、対象物に当てた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。
  誤ってステープルが発射した場合、けがの原因になります。

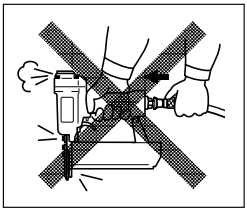
⑧



⚠警告

⑨ ステープルを装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

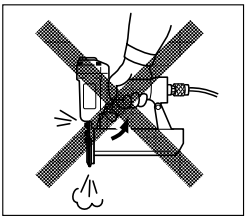
⑨

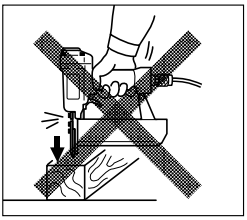


- エアホースを接続しただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- 空気漏れや異常音がしないこと。
  異常のあるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑩ 使用前に安全装置の確認をしてください。

⑩





この機体は、プッシュレバーと引金の両方を作動させないと、ステープルが発射されない構造になっています。ステープルを装てんする前に、エアホースを接続して、引金のロックを解除し、さらにマガジンベースを引き出して次の確認をしてください。

- 引金を引いただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- プッシュレバー（射出口）を打ち込み対象物に押し当てただけで、ピストンなどの作動音がしないこと。

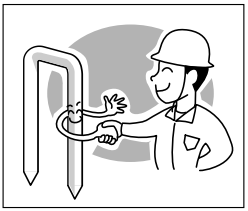
  異常のあるまま使用すると、けがの原因になるので、異常があるときは、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑪ 用途に合った作業に使用してください。

- 本機は、木材または類似の材料へのステープル打ち作業を目的とした工具です。
  指定された用途以外には使用しないでください。

⑫ 指定のステープルを使用してください。

⑫



- 指定されたステープル以外のものを使用すると、けがや機体の故障の原因になるので使用しないでください。

⑬ 子供を近づけないでください。

- 作業者以外、タッカやエアホースに触れさせないでください。
- 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
  けがの原因になります。

⑭ 作業場は、いつもきれいに保ってください。

- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- 作業場は十分に明るくしてください。
  暗い場所での作業は、事故の原因になります。

⑮ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

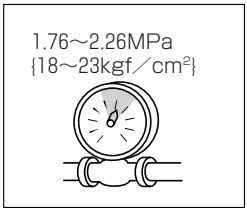
⚠警告

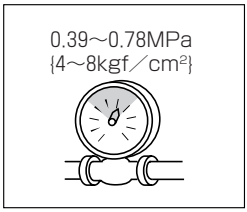
作業中

① 指定の空気圧力で使用してください。

- 高圧タッカ（N 2504HMB, N 2507HMB, N 2510HMB）の使用空気圧力範囲は
  1．76 ～ 2．26 MPa {18 ～ 23 kgf／cm²} です。
  この範囲内で使用してください。
  2．26 MPa {23 kgf／cm²} を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。
- タッカ（N 2504MB, N 2507MB, N 2510MB）の使用空気圧力範囲は 0．39 ～ 0．78 MPa {4 ～ 8 kgf／cm²} です。この範囲内で使用してください。
  0．78 MPa {8 kgf／cm²} を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。

①

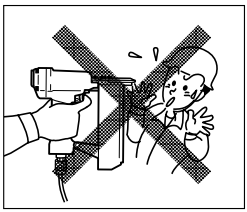




② 人体に射出口を向けないでください。

- 人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。

②



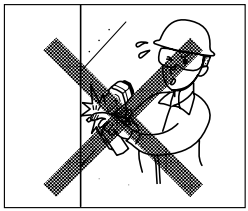
③ 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。

- 誤ってステープルが発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。

④ ステープルを打ち込む材料の裏側に、手や身体を置かないでください。

- ステープルが突き抜けたり、材料が欠けたときなどに、けがの原因になります。

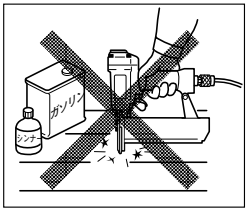
③



⑤ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

- 可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で、タッカやエアコンプレッサを使用しないでください。
  ステープルを打ち込むときの火花による引火や、空気といっしょに吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

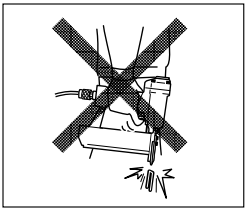
⑤



⚠警告

⑥ ステープルを打ち込むとき以外は、引金に指を掛けないでください。

⑥



- 引金に指を掛けて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
- ステープルを装てんするときや調整などをするときは、引金に指を掛けないでください。
  誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑦ エアダスタバルブを使用するときは、次のことに注意してください。

- 引金をロックする。
- 人体に吹き出し口を向けない。
- 射出口に触れたり、対象物に当てた状態にしない。
  誤ってステープルが発射した場合、けがの原因になります。

⑧ 高圧タッカ (N 2504HMB, N 2507HMB, N 2510HMB) の調圧器で打ち込み調整をするときは、引金をロックしてください。

- 誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑨ ノーズキャップの着脱をするときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。【N 2507HMB, N 2507MBのみ】

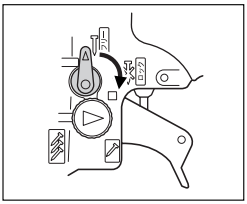
- 誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑩ フックを使用するときは、必ず引金をロックし、エアホースをはずしてください。

- 誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

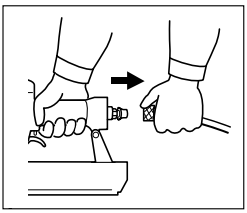
⑪ 次の場合は、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

⑪



- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
- 点検・修理・調整、ステープルづまりの直しなどの場合。
- ステープルを装てんする場合。
- タッカを移動する際や手渡しする場合。
  誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑫ 引金に指を掛けた状態でエアホースをはずさないでください。



- 引金に指を掛けた状態でエアホースをはずすと、次にエアホースをつないだとき、誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑬ ステープルを打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。

- 一度打ったステープルの上に、再度ステープルを打つことはしないでください。
  ステープルがはね返ったり、機体が反発することもあり、けがの原因になります。

⚠警告

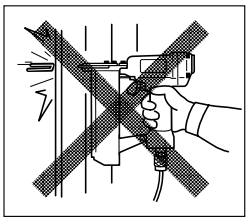
⑭ 作業中はまわりの人に注意してください。

- ステープルを連結している接着剤の破片や、打ち損じたステープルが当たる恐れがあり、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。
  機体や材料などを落としたとき、事故の原因になります。

⑮ 薄い板や木材の端にステープルを打たないでください。

- 薄い板に打つとステープルが突き抜けたり、木材の端に打つとステープルがそれたりして、けがの原因になります。

⑮



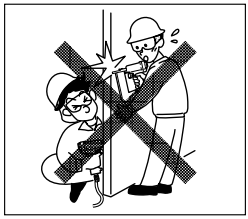
⑯ 機体の反発に注意してください。

- 硬い所に打った場合、機体がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

⑰ 壁の両側から同時にステープル打ち作業をしないでください。

- 打ったステープルが突き抜けたり、壁ぎわのステープルがそれたりして、けがの原因になります。

⑰



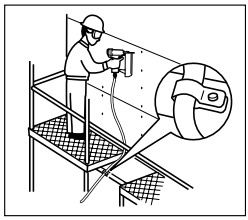
⑱ 無理な姿勢で作業をしないでください。

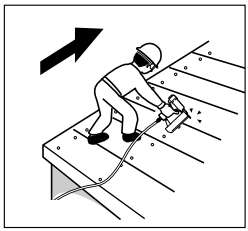
- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。転倒して、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、ステープル打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。
  けがの原因になります。

⑲ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。
  不意にエアホースを引っ掛けたりした場合、けがの原因になります。
- 屋根などの斜面でステープルを打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。
  後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。
- 床などの水平面でステープルを打つときは、前進しながら作業してください。
  後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。
- 壁などの垂直面にステープルを打つときは、上から下へ作業してください。

⑲





⚠警告

⑳ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- タッカを使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

㉑ エアホースをつかんで機体を移動しないでください。

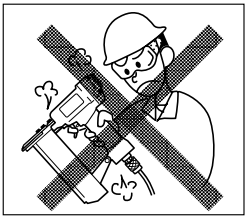
㉒ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

- 内部の圧縮空気で破裂の恐れがあり、けがの原因になります。

㉓ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。

- そのまま使用すると、けがの原因になります。

㉓

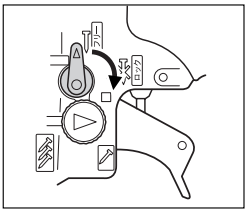


作業後

① 作業後は、引金をロックし、エアホースをはずしてから、ステープルを全部抜き取ってください。

- ステープルを残しておくと、次に使用するときなど、誤って作動した場合に、けがの原因になります。

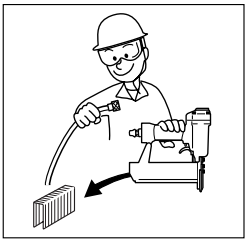
①



② タッカやエアコンプレッサ、エアセットは直射日光に長時間当てたまま放置しないでください。

③ タッカは、注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくため、タッカは常に手入れをし、清潔に保ってください。
- 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。



④ 使用しない場合は、きちんと保管してください。

- 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

⑤ 部品をはずしたり、改造をしないでください。

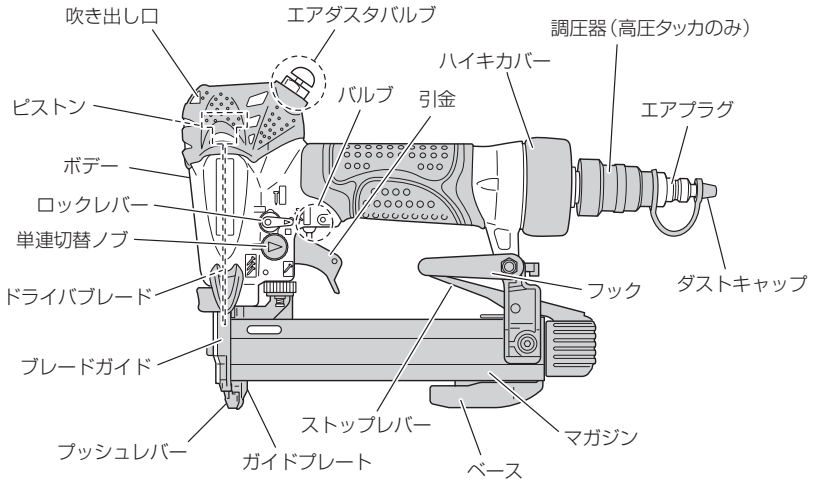
- 安全性が損なわれ、けがの原因になります。

⑥ タッカの修理は、専門店に依頼してください。

- 修理は、必ずお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
  ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

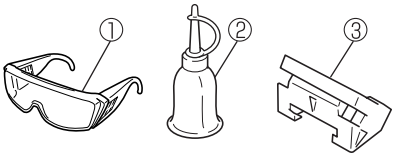
各部の名称

【イラストは高圧タッカN 2504 HMBです】



標準付属品

① 保護メガネ……1個
② 油さし……1個
③ ノーズキャップ（フロア打ち用）
【N 2507 HMB,N 2507 MBのみ】 ……1個



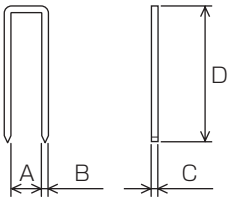
仕　様

機種名 形　名	高圧タッカ N 2504HMB, N 2507 HMB, N 2510 HMB	タッカ N 2504MB, N 2507 MB, N 2510 MB
動力形式	ピストン往復動式	
使用空気圧力	1.76～2.26 Mpa {18～23 kgf／cm²}	0.39～0.78 Mpa {4～8 kgf／cm²}
ステープルの送り方式	圧縮コイルばね式	
ステープルの装てん数	100本（1連）	
機体の大きさ （長さ×高さ×幅）	295 mm× 191 mm× 55 mm	250 mm× 191 mm× 55 mm
質量	1.2 kg	1.1 kg
使用エアコンプレッサ	日立高圧エアコンプレッサ EC 1443 H	一般圧エアコンプレッサ EC 922
使用エアホース 内径 長さ	日立高圧エアホース 5 mm 以上 30 m 以内	一般圧エアホース 5 mm 以上 30 m 以内

別売部品（別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。）

1. ステープル

この機体は、下の表に示すステープルが使用できます。ステープルは約 100 本が 1 連に接着されています。
寸法はおおよその値を示しております。ステープルはこのタッカをお買上げの販売店でお求めください。



（寸法単位：mm）

N 2504HMB, N 2504 MB				
形　名	A	B	C	D
B 0413-2	3.7	0.6	1.2	13
B 0416-2				16
B 0419-2				19
B 0419S 2				19
B 0419W 2				19
B 0422-2				22
B 0422W 2				22
B 0425				25
B 0425S				25
B 0425W				25

N 2507HMB, N 2507 MB				
形　名	A	B	C	D
B 0713	6.8	0.9	1.25	13
B 0716				16
B 0719				19
B 0719S				19
B 0722				22
B 0722S				22
B 0725				25
B 0725S				25

N 2510 HMB, N 2510 MB				
形　名	A	B	C	D
B 1013	10	0.6	1.2	13
B 1016				16
B 1019				19
B 1019S				19
B 1022				22
B 1025				25
B 1025S				25

・Sはステンレスステープル
・Wはカラー（白）ステープル

2. 回転式大形フック

詳細は、P 21 の「フックの取扱い方」を参照してください。

ご使用前の準備・点検

○騒音防止規制について
騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

●エアコンプレッサ、エアホースの準備

⚠警告

- **高圧タッカは、使用圧力を一般圧のタッカより高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと、専用の高圧エアホースを使用してください。**
- **高圧タッカおよびエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットは専用となっており、一般圧のものと接続できないようにしてあるので、改造しないでください。**

高圧タッカ（N 2504HMB, N 2507HMB, N 2510HMB）に使用できる高圧エアホース、タッカ（N 2504MB, N 2507MB, N 2510MB）に使用できるエアホース内径は共に、5 mm 以上です。

高圧エアホース／エアホースをエアコンプレッサにしっかり接続してください。

注 **高圧エアホース／エアホースの長さは、30 m以内のものをお使いください。**
エアホースが長いと圧力が降下して、十分な打ち込みが得られません。

●エアコンプレッサのドレン除去

水や油が内部にたまると、さびの発生などで故障の原因になります。

ご使用前後には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆるめて、内部にたまった水や油を除去してください。乾燥した清浄な圧縮空気をご使用ください。

（詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。）

●ステープル準備と安全確認

用途に合ったステープルを準備してください。（P 9「1. ステープル」参照）

P 23 の「保守・点検」を参照し、安全点検を必ず行って下さい。

⚠警告

- **可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。**
- **子供など作業者以外は近づけないでください。**
- **ねじ類がゆるんでいないことを、十分に点検してください。**
- **損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。**

●空気圧力の確認

空気圧力は、ステープルの打ち込み能力（ステープルの長さ、木材の硬さなど）に合わせて、機体の使用空気圧力の範囲内で使用してください。

高圧タッカ（N 2504HMB, N 2507HMB, N 2510HMB）は 1.76 ～ 2.26 MPa {18 ～ 23 kgf／cm²}、タッカ（N 2504MB, N 2507MB, N 2510MB）は 0.39 ～ 0.78 MPa {4 ～ 8 kgf／cm²} の範囲で調整してください。

機体の性能、寿命、安全に影響を及ぼしますので、空気圧力は使用範囲内で使用してください。

●引金のロック機構について

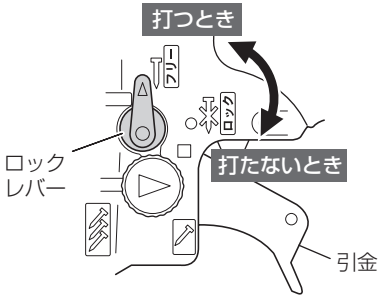
⚠ 警告

ステープルを打ち込むとき以外は、引金をロックしてください。

この機体には、引金を引けなくするロック機構がついています。

ロックレバーを「ロック」の位置にすると引金がロックされます。

打つときはロックレバーを回して「フリー」の位置に、打たないときは「ロック」の位置にしてください。



●給油について

- 必ず 1 日に 2 回以上給油してください。給油は、作業の前後に 10 ～ 15 滴の油をエアホース取付口から入れてください。作業前の油は潤滑油となり、作業後の油はさび止めとなります。
- 油は付属の油をご使用ください。その他、使用できる油はP26 の「使用潤滑油」を参照してください。なお、混用は避けてください。

注
- **高圧タッカ（N 2504HMB, N 2507HMB, N 2510HMB）に付属の油さしは、ノズルに穴があいています。先端を切らずにご使用ください。また、中栓がしてありますので、中栓を取りはずしてからご使用ください。ご使用にならないときは中栓をして保管してください。**
- **給油直後空気を通すと、しばらくの間油が排気口より噴霧状に飛び散りますので、油がかかっても支障のない所で 2 ～ 3 本ステープルを打ってから作業してください。**
- **作業後給油した場合、ステープルを 1 本打ちますと油が内部に行き渡ります。**

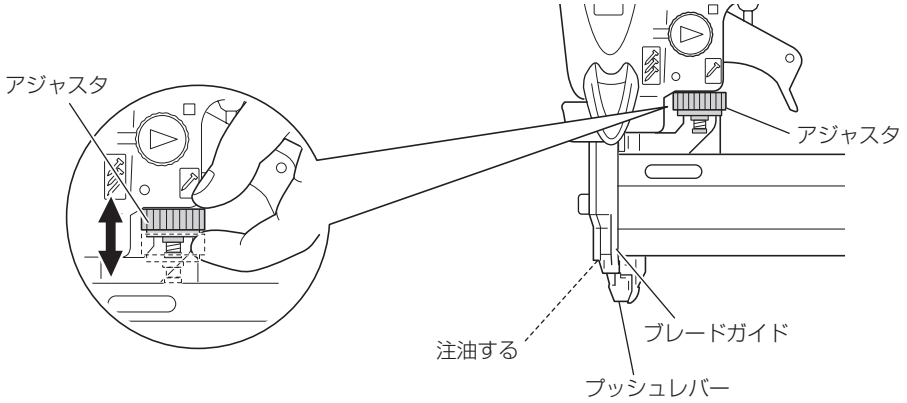
●プッシュレバーの動作確認

⚠ 警告

プッシュレバーの動作を確認するときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

アジャスタのダイヤル部を上下させ、プッシュレバーとノーズがスムーズに摺動することを確認してください。

動作が悪いときは、プッシュレバーの摺動部を清掃し、付属の油を注油してください。



●エアホースの接続

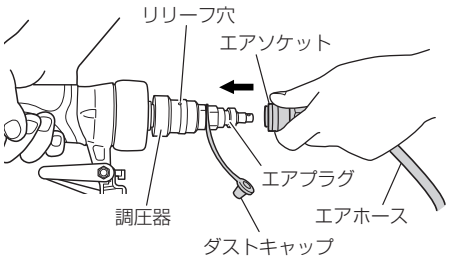
⚠ 警告

機体にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- **引金をロックする。**
- **射出口を台や床などにのせて、押し上げた状態にしない。**
- **射出口を人体に向けない。**

- エアプラグからダストキャップをはずし、ごみやほこりが内部に入らないように、エアプラグの口元のごみをふき取ります。
- エアプラグにエアソケットをしっかりとさし込んでエアホースを接続します。

注 高圧タッカ（N 2504HMB, N 2507HMB, N 2510HMB）の場合、エアホースを接続した直後、調圧器のリリーフ穴から一時的に空気が排出されることがありますが、これは故障ではありません。



ステープルの装てん方法

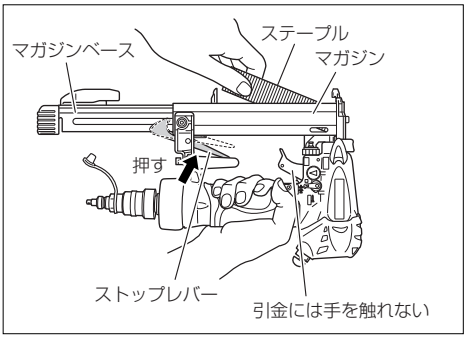
⚠警告

ステープルを装てん・抜き取りの際は、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

1 ストップレバーを押し、マガジンベースを後ろへ引き出します。

2 ステープルの足を上にしてマガジンの中に入れます。

3 マガジンベースをもと通り押し込むと、ストップレバーでロックされます。



ステープルの打ち方（単発／連続）

ステープルの打ち方には、先にプッシュレバーを打ち込み対象物に押し当ててから引金を引く「単発打ち」と、先に引金を引いてからプッシュレバーを押し当てる「連続打ち」の２つの操作方法があります。

単発打ちは、仕上げを重視する作業や狙った所にステープルを打つ際に使用し、連続打ちは、引金を引いたまま連続的に作業したい場合に使用します。

この機体は、作業内容によって効果的な使い方ができるように単発／連続切替え機構を備えています。

安全装置について

この機体は、プッシュレバーと引金が同時に作動しないと、ステープルが発射されない構造になっています。したがって、引金を引いただけのとき、または、プッシュレバー（射出口）を打ち込み対象物に押し当てただけでは、ステープルは発射されません。これは、ステープルを打つとき以外に誤って引金を引いたり、プッシュレバー（射出口）を押し当てただけで、ステープルが発射されることを防ぐためです。

●単発打ち

⚠注意

単発打ちでも、引金は素早く、確実に引いてください。
引金を素早く、確実に引かないと、打ち込み時の反動で連続打ちすることがあります。

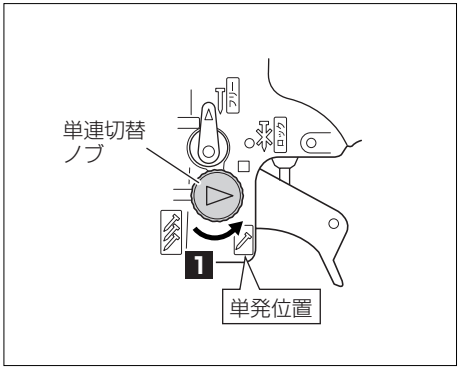
1 単連切替ノブを、右向きの単発位置にセットします。

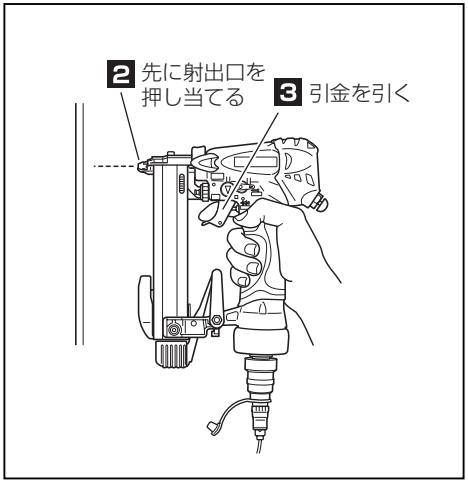
2 ステープルを打つ所に射出口を軽く押し当てます。

3 引金を引き、ステープルを打ち込みます。

4 機体を持ち上げて、引金をはなします。

注 **狙った所にステープルを打つ場合は、単発打ちで作業してください。**





●連続打ち

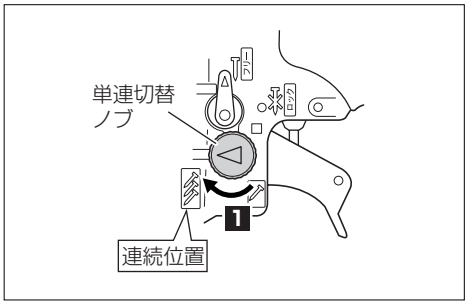
連続打ちは、はじめに引金を引いておき、その後、ステープルを打つ所にプッシュレバー（射出口）を「トン・トン・トン」と押し当てれば、連続的に作業ができます。

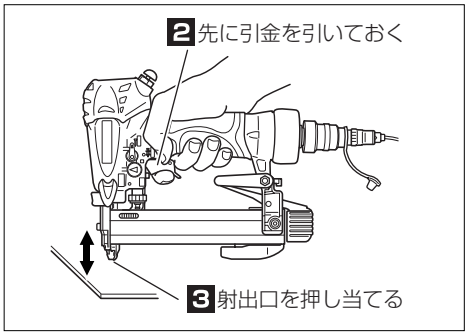
1 単連切替ノブを、左向きの連続位置にセットします。

2 先に、引金を引きます。

3 プッシュレバー（射出口）を、対象物に押し当て、ステープルを打ちます。

4 引金を引いたまま機体を持ち上げて、**3** からの手順を繰り返し、連続してステープルを打ちます。





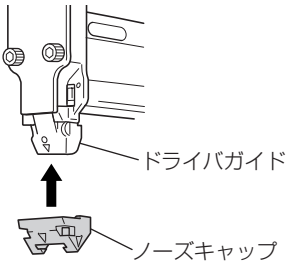
注 **空打ち防止機構は「単発打ちで使用時」のみ動作し、「連続打ちで使用時」は動作しませんので注意してください。**

●フロア（床張り）打ち作業【N 2507HMB, N 2507MBのみ】

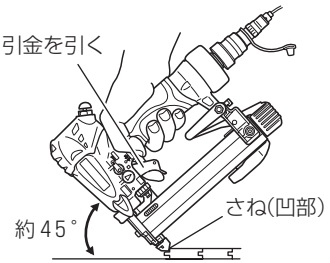
⚠警告

ノーズキャップを着脱するときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

フロア（床張り）打ち作業をする前に、ノーズキャップを右図の向きに取付けてください。



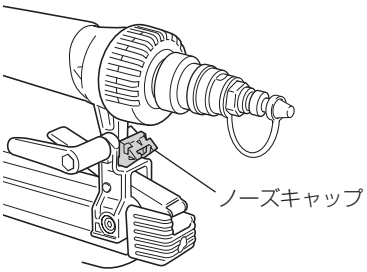
フロア打ち作業はフロア材の浮上がりを防止するため、機体の打ち込み角度は約45°にし、ノーズキャップの先端凸部をフロア材のさね（凹部）に確実に当てて打ち込むようにしてください。



注 **フロア打ち作業は、フロア材の浮上がりを防止するため、フロア材を接着剤で貼り付けた上で行ってください。**

ノーズキャップの保管

使用しないときのノーズキャップは、ハンドルアームの凸部にさし込んで保管してください。



ステープルを打つ

⚠警告

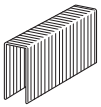
- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。
- 一度打ったステープルの上に、再度ステープルを打つことはしないでください。
- 使用しない場合や作業中断時は、引金をロックし、エアホースをはずしてください。
- 作業終了後は、エアホースをはずしてから、ステープルを全部抜き取ってください。

注 低温時に使用すると、機体の動作が悪くなることがあります。

1 給油する

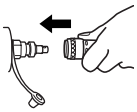
10～15滴の油をエアホースの取付口から入れてください。さび止めのため、作業後も給油してください。(P11「給油について」参照)

2 ステープルを装てんする



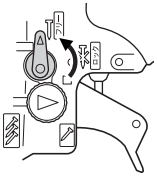
作業の用途に合った形状・寸法のステープルを装てんしてください。
(P13「ステープルの装てん方法」参照)

3 エアホースを接続する



エアホースのエアソケットをエアプラグにさし込みます。
(P12「エアホースの接続」参照)

4 ロックレバーを「フリー」の位置にする

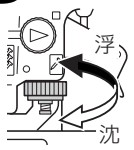


ロックレバーを回して「フリー」の位置に合わせてください。
(P11「引金のロック機構について」参照)

5 打ち方を選択する

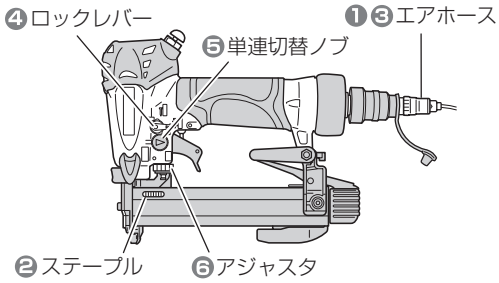
単連切替ノブ、作業に応じて「単発打ち」「連続打ち」を選択します。
(P13「ステープルの装てん方法」参照)

6 ステープルを打つ



アジャスタで、ステープルの打ち込み深さを調整します。
(P18「打ち込み深さの調整」参照)

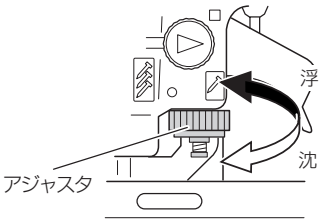
注
- 材料の硬さ・厚さ・組合わせによってはステープルが曲がる場合や材料が割れる場合がありますので、試し打ちして確認の上、ご使用ください。
- 作業後は、エアコンプレッサの空気を抜いて、空気圧力を0にしてください。ドレン抜きをゆるめると、タンク内のドレンが除去されると同時に、圧縮空気が抜けて空気圧力が0になります。



打ち込み深さの調整方法

⚠警告

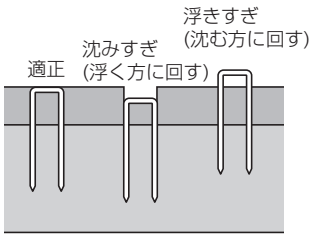
アジャスタを調整するときは、射出口を下に向け、顔や手・足などの人体がないことをご確認のうえ、引金もロックし、エアホースをはずしてください。



試し打ちし、ステープルが沈みすぎるときはアジャスタを浮く方（マーク ）に回します。

ステープルの頭が浮くときは、アジャスタを沈む方（マーク ）に回します。

アジャスタは、1 回転させるごとに 0.75 mm 移動します。



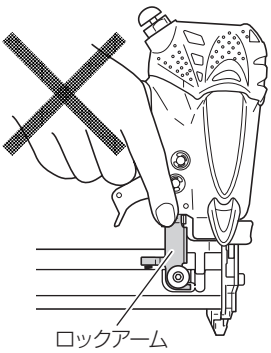
注 **打ち込み深さの調整は、使用空気圧力によっても調整できるのでアジャスタの調整と併用してください。**
ステープルの打ち込み抵抗に合わない高い圧力で使用すると機体の寿命を早めます。

空打ち防止機構について

この機体はステープルがなくなったあとの空打ちを防ぐため、空打ち防止機構を備えています。

「単発打ちで使用時」は、ステープルがなくなると、空打ち防止機構が動作し、引金が引けなくなります。
引金を引いたままの「連続打ちで使用時」は、空打ち防止機構は動作しません。

注
- **ステープルがなくなり、引金が引けない状態で引金を強く引くと、空打ち防止機構が誤動作し、ピストンが動作することがあるので、強く引きすぎないように注意してください。**
- **空打ち防止機構は「単発打ちで使用時」のみ動作し、「連続打ちで使用時」は動作しませんので注意してください。**
- **マガジンベースを引き出すと空打ち防止機構が無効になります。**
  空打ちを続けると各部に影響を与えるので、不要な空打ちをしないよう注意してください。



- **ステープルを打つときはロックアームに触れないでください。**
  空打ち防止機構の誤動作の原因になります。
- **空打ち防止機構が誤動作すると、引金が引けなくなったり、ピストンが動作することがあります。**
  このときは、P 24「空打ち防止機構の点検」の項を参照してください。

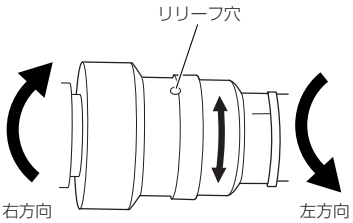
調圧器について【N 2504 HMB, N 2507 HMB, N 2510 HMBのみ】

⚠ 警告

調圧器で打ち込み調整をするときは、引金をロックしてください。

高圧タッカ（N 2504HMB, N 2507HMB, N 2510HMB）には、ステープル打ち込み能力（ステープルの長さ、部材の硬さなど）に応じて出力を無段階に変えられる調圧器が付いています。

調圧器を右方向（目盛りが大きくなる方向）へ回転すると打ち込み能力が強くなり、左方向（目盛りが小さくなる方向）へ回転すると弱くなります。



注 調圧時、調圧器のリリーフ穴から一時的に空気が排出されることがありますが、これは故障ではありません。

この調圧器は、高圧エアホース側の圧力 1.76 ～ 2.26 MPa {18 ～ 23 kgf／cm²} を一般圧（0.49 ～ 0.78 MPa {5 ～ 8 kgf／cm²} 前後）に減圧しています。

調圧器内にごみなどが入ると、密封性が低下し、この状態でエアホースをつないだまま長い間放置すると、徐々に機体内の圧力が上がってリリーフ弁が作動してリリーフ穴から空気が排出されることがあります。

万一、リリーフ弁が作動して空気が排出された場合は、次の手順にしたがって状態を確認してください。空気の排出が止まれば正常です。

① すぐにエアホースをはずします。

② エアコンプレッサの圧力が 1.7 6 MPa {18 kgf／cm²} 以上に復帰するまで待ちます。

③エアホースをつなぎ直します。

（1 回で空気の排出が止まらない場合は、① ～ ③ の手順を数回繰り返してください。）

上記 ① ～ ③ を行ってもリリーフ穴から空気を排出し続ける場合は、調圧器の故障ですので、直ちに作業を中断してエアホースをはずし、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

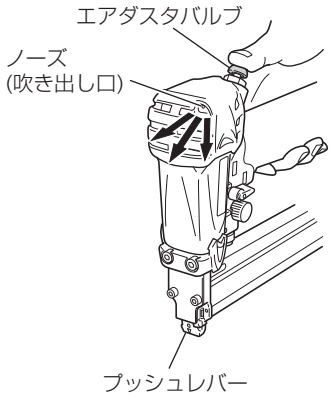
エアダスタバルブの使い方

⚠ 警告

- エアダスタバルブを使用するときは、引金をロックしてください。
- 人体に吹き出し口を向けないでください。
- プッシュレバーを押し当てたまま、エアダスタバルブを使用しないでください。

注
- 機体に給油した直後、エアダスタバルブを使用すると油が吹き出し口より噴霧状に飛び散る場合があるので、油がかかっても支障のない所で 2 ～ 3 秒試し吹きしてから作業してください。
- エアダスタバルブを長時間使用すると、一時的に打ち込み力が低下する場合があります。このときは、空気の供給圧力が安定してから作業を始めてください。

この機体は、作業中に発生する木くずなどを吹きとばすためのエアダスタを備えています。
親指でエアダスタバルブを押して使用してください。

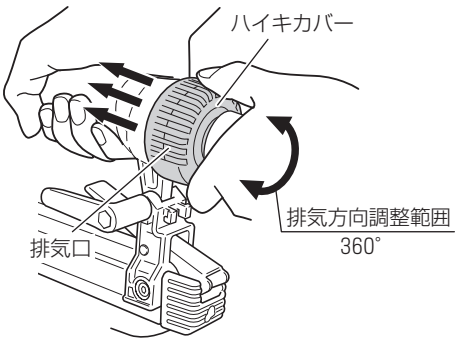


排気方向の変え方

⚠ 警告

排気方向の調整をするときは、引金をロックしてください。

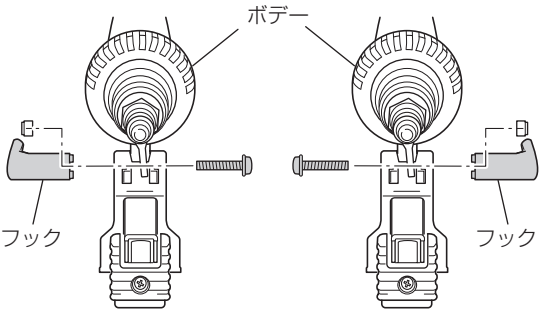
排気口の向きは、ハイキカバーを回すことにより 360˚ の範囲で変えることができます。



フックの取扱い方

⚠警告

- **フックの取付け位置を変えるとき、向きを変えるとき、使用するときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。**
- **フックを使用するときは、工具本体が落下しないように、しっかりと掛けてください。**
  工具本体が落下すると事故の恐れがあります。



フックは 2 方向に取付け位置を変えることができます。
取付け位置を変えるときは、プラスドライバーでねじをはずし、フックの取付け位置を変えてから、再び組込んでください。

回転式大形フック

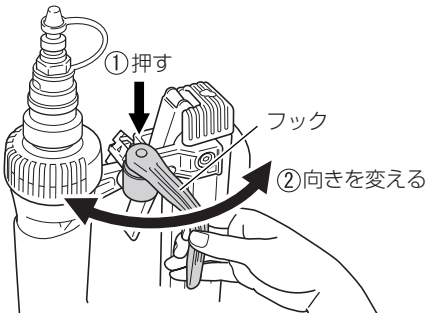
フックは、別売部品の回転式大形フックに付け替えが可能です。

1 . 取付け方法

標準付属のフックをはずし、標準付属のフックと同じように、 2 方向に取付け向きを変えることができます。

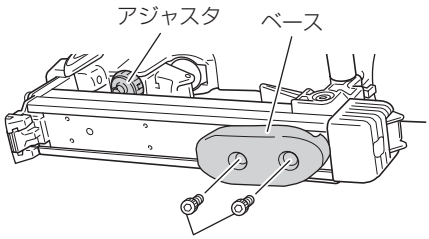
2 . フックの向きを変える

フックは向きを変えることができます。
フックの向きを変えるときは、矢印の方向に押しながら回してください。



ベースについて

ベースを取りはずしてご使用になる場合は、六角棒スパナ 3 ㎜を使用して六角穴付ボルトM 4 × 1 2 (2 本)をはずすと、ベースが取りはずせます。



ステープルの取扱い方

注 • ステープルの扱いをていねいにしてください。落とすと、連結部が切れます。また、そのままの状態で使用するとステープル送り不良により、空打ち、ステープルづまりなどが発生するため、使用しないでください。

• ステープルは、長時間外気や直射日光にさらさないでください。さびの発生や、連結部に不具合が生じる場合があるので、使用しないときはステープル梱包箱などに入れてください。

保守・点検

⚠警告

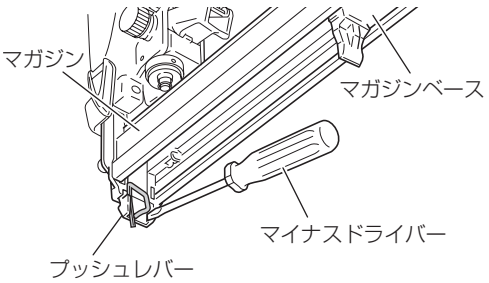
- ステープルがつまったときは、引金をロックし、エアホースをはずして使用を中断してください。
- ステープルがつまった状態で機体を作動させないでください。
- ステープルづまりを直すときや点検・手入れの際は、引金をロックし、エアホースをはずしてステープルを全部抜き取ってください。

●ステープルづまりの直し方

① ストップレバーを押し、マガジンベースを引き出し、マガジンに入っているステープルを全部抜きます。

② プッシュレバーの溝につまったステープル、接着剤、破片、木くずなどをマイナスドライバーなどで取除きます。

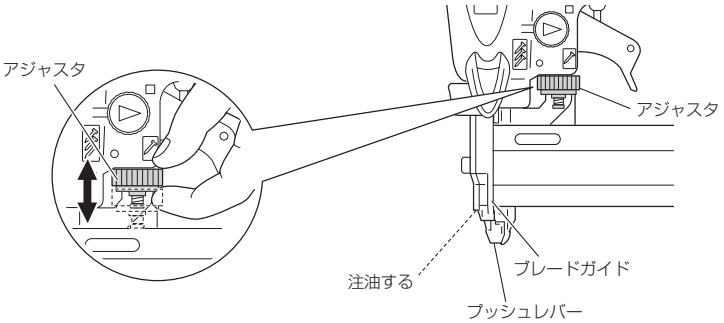
③ プッシュレバーを引き出してスムーズに上下動することを確認してください。（下の「プッシュレバーの点検」参照）



注 **ステープルづまりを直した後は、ステープルを装てんし、試し打ちしてから使用してください。**

●プッシュレバーの点検

アジャスタのダイヤル部を上下させ、プッシュレバーがスムーズに上下動することを確認してください。
プッシュレバーの摺動部は掃除し、ときどき付属の油を注油してください。
油を注ぐことによりスムーズに動作すると同時にさび止めにもなります。



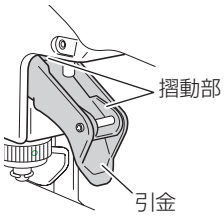
●マガジンの点検

マガジン内をときどき掃除してください。マガジンベースを引き出して、中にたまったステープルの接着剤、ごみ、木くずなどを取除いてください。

注 マガジン内が汚れると、ステープルを送るステープルフィーダの動きが悪くなり、空打ちが発生しやすくなります。

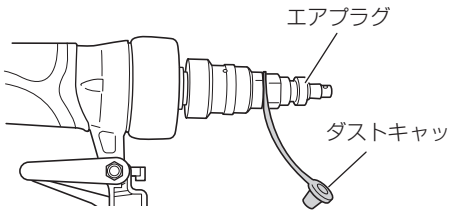
●引金の点検

引金の摺動部はときどき掃除し、付属の油を注油してください。
油を注ぐことにより、スムーズに動作すると同時にさび止めにもなります。



●ごみ・ほこりの防止

使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ、機体内にごみが入るのを防いでください。

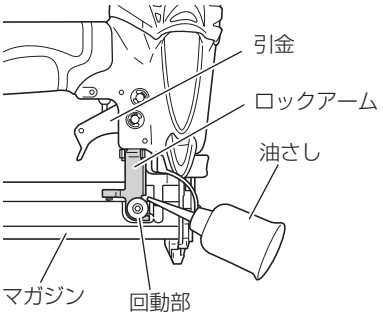


●取付ねじの点検

各部取付ねじにゆるんでいるところがないか、定期的に点検してください。
ゆるんでいる場合には、締め直してください。

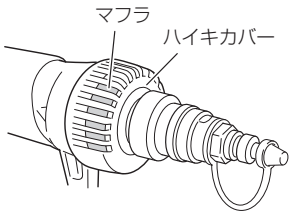
●空打ち防止機構の点検

空打ち防止機構が円滑に作動するようロックアームの回動部に付属の油さしで注油し、指でロックアームを上下させてください。
その後、ステープルが装てんされていない状態で、マガジンベースを閉じて引金が引けないこと、マガジンベースを引き出して引金が引けることを確認してください。



●マフラの点検

この機体は、排気時の騒音やほこりの巻き上げを少なくするため、排気部にマフラを内蔵しています。
マフラが目づまりや破損したときは、マフラを交換してください。
マフラ交換の際は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに依頼してください。



●作業後の保管

⚠ 警告

作業後は、ステープルを全部抜き取ってください。

注 エアプラグにダストキャップをさし込むときは、機体をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。

- ●作業後は、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込み、保管してください。
- ●長期間使用しない場合は：
  - さび防止のため、エアプラグから給油し、２、３本ステープルを打って油を内部に行き渡らせてください。
  - 金属の摺動部には油をうすく塗布してください。
  - 油は、付属の油をご使用ください。
    その他、使用できる油はP26「使用潤滑油」を参照してください。なお、混用は避けてください。
- ●気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、始動が悪くなる場合がありますので暖かい場所に保管してください。
- ●お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。

エアコンプレッサと作業の速さ

エアコンプレッサを使用する場合の作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）と使用空気圧力（MPa）の関係は、下表を目安にしてください。

〈高圧タッカ（N 2504HMB, N 2507HMB, N 2510 HMB)〉

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

使用空気圧力 ／ 高圧釘打機用エアコンプレッサ	1.76～2.26 MPa {18～23 kgf／cm²}
EC 1443H	230～200本

連続してステープル打ち作業をする場合には、別売の補助タンク（高圧対応）の使用をおすすめします。

〈タッカ（N 2504MB, N 2507MB, N 2510MB)〉

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

使用空気圧力 ／ エアコンプレッサ	0.39～0.49 MPa {4～5 kgf／cm²}	0.49～0.59 MPa {5～6 kgf／cm²}	0.59～0.69 MPa {6～7 kgf／cm²}	0.69～0.78 MPa {7～8 kgf／cm²}
EC 922	170～150本	150～130本	130～100本	100～ 60本
EC 1443 H	250～230本	230～200本	200～150本	150～ 90本

使用潤滑油

使用潤滑油は、日立釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油の種類		銘柄および品名
日立釘打機・タッカ用オイル		〔別途販売しております〕
その他のオイル〔市販品〕	ベビコン油	日立ベビコン用オイル
	エンジンオイル	エンジンオイル各銘柄　SAE10W、SAE20W
	タービン油	タービン油各銘柄　ISO VG32～68（#90～#180）

注 **潤滑油は必ず上表の油を使用してください。**
不適正な油を使用すると動作不良の原因になります。

ご修理のときは

この製品は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自身で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。
ご不明のときは、下記の全国営業拠点にご相談ください。また、部品ご入用の場合や取扱いでお困りの点などについても、ご遠慮なくお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(NO.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　月　日	製造番号(NO.)
販売店（TEL）	

全国営業拠点

■ 日立工機電動工具センターへのご用命は、下記の営業拠点にお問い合わせください。

北海道支店　TEL (011) 271−4751 (代)　〒060−0003 札幌市中央区北三条西４丁目１番地１(日本生命札幌ビル)
東北支店　TEL (022) 288−8676 (代)　〒984−0002 仙台市若林区卸町東３丁目３番36号
関東支店　TEL (03) 5812−6331 (代)　〒110−0016 台東区台東４丁目11番４号(三井住友銀行御徒町ビル)
中部支店　TEL (052) 262−3811 (代)　〒460−0008 名古屋市中区栄３丁目７番13号(コスモ栄ビル)
北陸支店　TEL (076) 263−4311 (代)　〒920−0058 金沢市示野中町１丁目163番
関西支店　TEL (0798) 37−2665 (代)　〒663−8243 西宮市津門大箇町10番20号
中国支店　TEL (082) 228−0537 (代)　〒730−0011 広島市中区基町11番13号(第一生命ビル)
四国支店　TEL (087) 863−6761 (代)　〒760−0078 高松市今里町１丁目28番14号
九州支店　TEL (092) 621−5772 (代)　〒813−0062 福岡市東区松島４丁目８番５号

「電動工具お客様相談センター」　0120 - 208822（フリーダイヤル・無料）
※携帯電話からはご利用になれません。　（土・日・祝日を除く 午前９：00 ～ 午後５：00）
電動工具ホームページ──http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

日立工機株式会社
〒108-6020 東京都港区港南２丁目15番１号(品川インターシティＡ棟)
国内営業本部　TEL（03）5783 - 0626（代）

901
部品コード　C99180701 T